

頑張る

農業法人

転作物としてソバ栽培に取り組み、地域特産「犬甘野(いぬかんの)そば」を加工・販売する亀岡市西別院町の農事組合法人「犬甘野営農組合」。こだわり水稲作業の受託、直売・飲食施設運営や都市交流イベントなどで、地域振興のモデル的組織となっている。

犬甘野地区は同市南西端で、標高約400メートルの山間地。かつては水稲の単作地域だったが、圃場(ほじょう)が小さく、大型農機が使えないことから、休耕地が増えた。「地域ぐるみで農地を守ろう」と、1973年に同地区の上ノ谷、中ノ谷、下条の3集落で犬甘野地域農業振興協議会を設立、集団転作で小豆、小麦などの栽培を始めた。

80年、国の圃場整備事業の導入を機に、活動の拡充を目指して同組合に改めた。約40畝の圃場整備が完成した88年に、用水路などの所有権や圃場利用権確保のため、63戸で農事組合法人の1号法人化した。

広くなった圃場で効率化をすすめるため、農作業受託を行ない、ソバ栽培を始めた。さらに「そばを使って同地区の看板にしよう」と加工・販売に取り組んだ。

同地区は昼夜の温度差が大きく、ソバ栽培に適し、有機栽培で「信州そば」に匹敵する高品質のそばが生産できる。亀岡産ヤマノイモをつなぎとし、同組合女性部がそば打ちに取り組み、京都府内をはじめ、大阪府内からも多くの消費者が訪れ

農事組合法人 **犬甘野営農組合** 亀岡市 西別院町



「犬甘野そば」を手にする向條組合長(右)と「犬甘野米」を持つ和崎邦夫事務局長

転作ソバを加工販売

消費者と交流イベントも盛ん

人。正従業員2人とパートタイマー、アルバイト5人。

2004年には、同組合と組合員全員がエコファーマー認定を受け、地域ぐるみで安全・安心な米作りに取り組んでいる。

消費者との交流イベントも盛んで、6月に「ほたるのふるさとコンサート」、11月に「秋の味覚ふるさとフェア」を毎年開催するなど、多彩な取り組みで地域振興に貢献している。

向條組合長は「直売所が各地にできていくが、加工品を増やし、年間通じて消費者が来店してくれる経営を展開していきたい。また、休耕地を活用し、集落の活性化にも積極的に取り組みたい」と話す。

▽法人の所在地 亀岡市西別院町犬甘野樋ノ口1の2。電話 0771(27) 2189。

るようになった。

94年には農事組合法人の1・2号法人となり、直売所「風土館・季楽」を開設。「犬甘野そば」

をはじめ、こだわり栽培の「犬甘野米」、野菜類を販売する。特にそば料理は好評で、休日は常連客も多く、97年には日本そば協会会長賞を受賞し

組合長は向條一郎さん(64)。理事6人、監事3